The Adventures of SONIC the Hedgehog

大人気！ゲーム読み物

ソニックの大冒険

▲チャミー　▲エッグマン

第5章 あ〜あ、メカ生んじゃった大騒動

ブーンブーン！

「どこだどこだ？　ニッキ、ガッコはまだかや？」

ブ〜ン・・・ブ〜ン・・・・！

朝の通学路。

ニッキとタニアは、前の晩、エミーのパーティーで遅かったので、眠くて眠くてしかたありません。

なのに、チャミーがうるさくつきまとってきます。

「ああ、もう〜！　ちょっと静かにしてよ、チャミー！」

「ぬぁんの。これが、ジト〜っとおちついていられるかってんだ。なんたって、ソニックのアニキにお会いできるかもしれないんだからな。」

「ああ〜、やだ。またこれだ！　昨日の夜、ガッコに落ちた光っていうのはぁ。なぁ〜んでもなかったの！」

ブルブルブルル〜〜！

チャミーが、大きく頭を振ります。

「うんにゃぁ、違うぞ、タニア。そりは、ずぇ〜ったい、ソニックのアニキだ。」

「また、これだぁ……！」

ニッキとタニアは、あきれて顔を見合わせました。

チャミーったら。

作／寺田憲史　絵／松原徳弘（パステル）

▲ニッキ　▲タニア

昨日の晩の、流れ星かなぁ～?っていう感じで落ちてきた光のことを。

すっかり、あのソニックが現れたんだと、思い込んじゃっていたのです！

ジッサイは、あのヘンタイ科学者……、じゃなかった、「今世紀最強の科学者」ドクター・エッグマンの乗ってきたメカだったんですけどね。

「ああ、早くオレっちは、アニキに会いたいぞぉ～い！」

「バッキュ～ン！」チャミーは、いてもたってもいられない、っていう感じにあたりを飛び回りだしました。

と、その時。

ピッピラ、ピッピ～～！

いせいのいい警笛を鳴らして、交差点のおまわりさんがすっとんできました。

そして、

「こらこらぁ～、そこのハエによく似たハチ！速度違反、それと目立ち過ぎ違反だぞ！」

そう言うと、ピッ！なんとハチに向かって罰金のキップを切ったのでした。

「のわ～！」

さすがのチャミーも、ガックンとなってズッコケました。

「ちょっとちょっと、お兄ちゃぁ～ん。交通違反で罰金取られたハチって、チャミーが世界で最初じゃなぁい？」

「う、うん……。」

それにしても、ちょっとおかしなおまわりさんです。

チャミーにキップを切ったかと思うと、もうすでに、交差点の真ん中にある安全地帯で、ピッピラと交通整理をはじめているのです。

しかも、その格好のおかしなこと！

「なんだ、ありはぁ？」

チャミーが、「うんにゃぁ？」と目を丸くしたのもムリありません。

そのおまわりさん、交通整理っていうよりは、まるでダンスしているみたいなのです。

そう、フラダンスのようでもあるし。

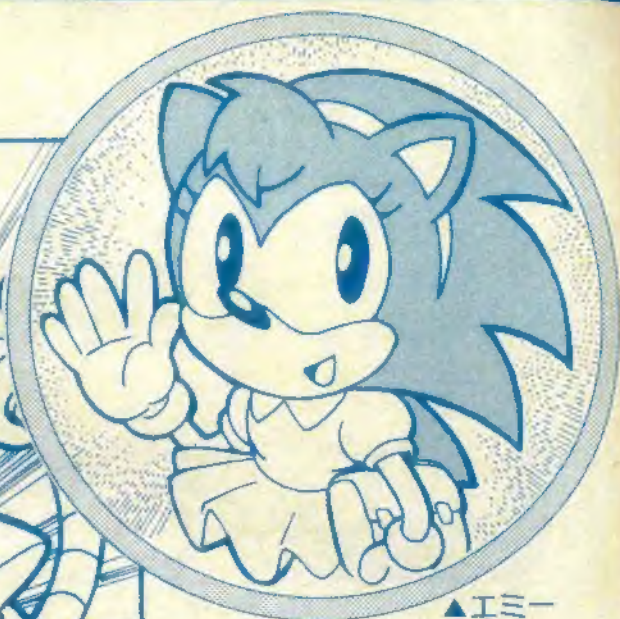
はたまた、マイケル・ジャクソンのブレイク・ダンスのようでもあります。

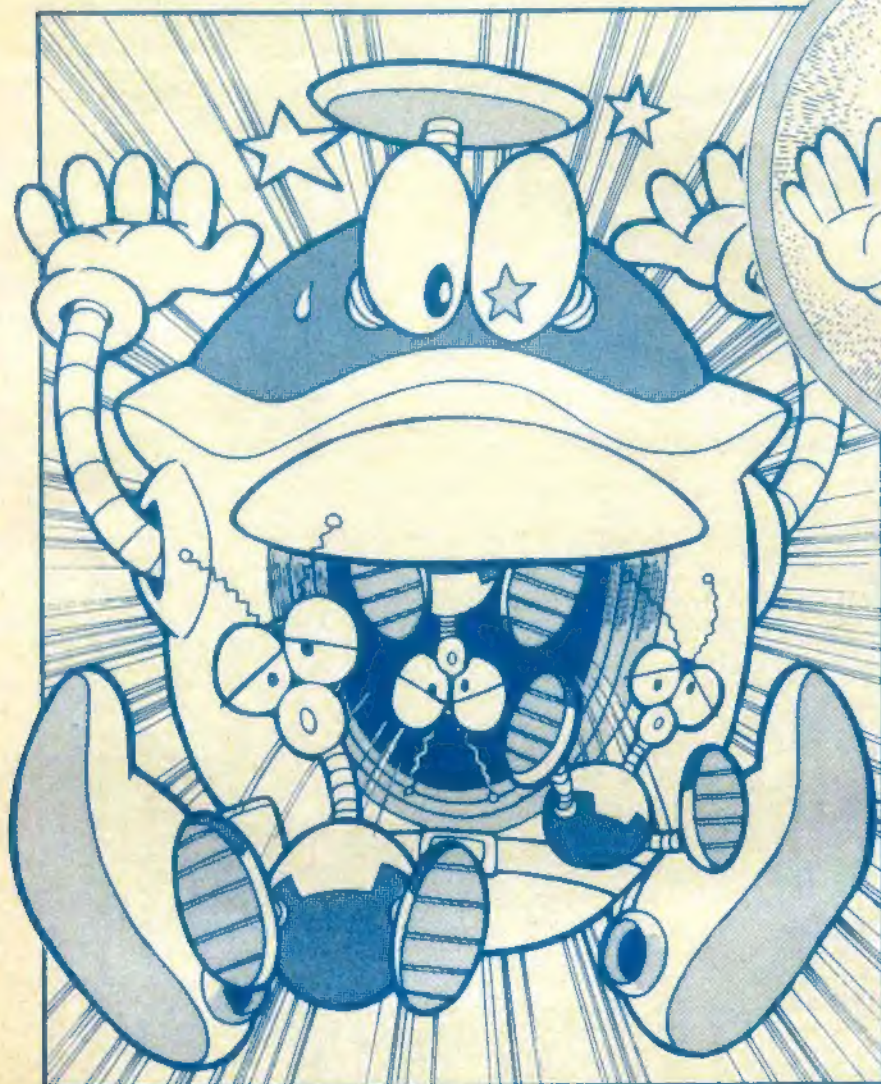
そのため、ヘッジホッグ小学校に行く子供たちが、おもしろがって交差点から先に進まないで止まってしまっています。

「ハ～イ、ニッキ！」

その中には、エミーもいました。それに、モニカとパティもいっしょです。

▲オムレッツ

▲エミー

「ねえ、ニッキ。こんなトコに、おまわりさん、いたっけ？」
と、パティ。
「そういえば、昨日まではいなかった気がするよねえ。」
そうですそうです！ 何を隠そう（べつに、何も隠してない！って）、このおまわりさんこそ、昨日、突然空から降ってきた、あのドクター・エッグマン！ だったのです。

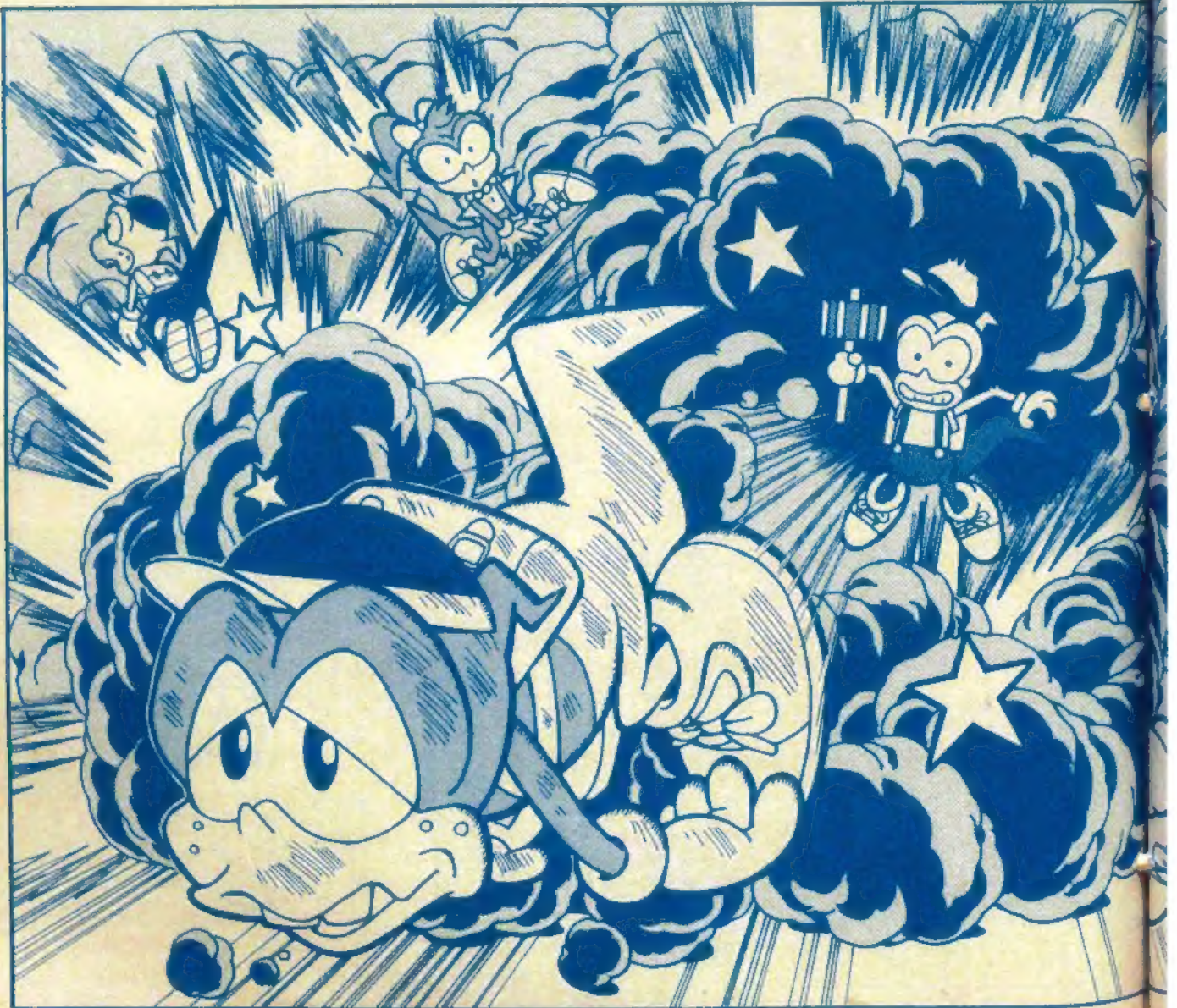
激突！ 三つ子VS四つ子

エッグマンのおまわりさんは、例の「メカ生んじゃったメカ」オムレッツの上で、もう得意です。
なんたって、交差点を通りかかった人という人が、カレに注目していたのですから。
「ぐっふふふ・・・。このワシのねらいどおりだな。まず町の様子を調べるには、その町のおまわりさんになるのが、イッチバン！ どだ、オムレッツ？」
「だなや、オッサン！」
……と、またまたオムレッツが、オッサンと口をすべらせてしまいました。
「オッサンとはなんだ、オッサンとはぁ～！ ドクターと呼びんしゃいドクターとォ～！」
怒ったエッグマン、警棒でビシビシッ！とオムレッツのオシリをたたきました。
「だなやだなやだなやぁ～～～！」
オムレッツが、悲鳴を上げて立ち上がりま

す。
「あれ／ あのおまわりさん、メカの上に乗ってたんだぁ／」
そうです。
オムレッツは、それまで丸くうずくまっていたため、ニッキたちには、ただの台に見えていたのです。
しかもしかも／
エッグマンが、オムレッツをお仕置きするためにたたいたはずのところは、オシリではなく、頭だったのでした。
「い、いかん／ こ、このワシとしたことがあぁぁ〜〜〜／」

▲ベルーカ・ブラザース

エッグマンは、タラ〜っとなりました。
でも、もちろんもう遅いのです。
「う〜〜〜〜ららら〜〜〜〜〜／」
『メカ生んじゃったメカ』オムレッツが、ぶるぶるぶる〜〜〜／と全身を真っ赤にしていきばりだしました。
「うわ〜〜〜、よせよせ／ オムレッツ／」
エッグマンは、あわててオムレッツを隠そうとしました。
でも、ここは交差点のまんまん中。
しかも、あんな目立つ交通整理をしていたもんですから、みんなの注目のマトです。
「なによなによ、このメカァ？」
好奇心おうせいのタニアが、まっ先に駆け寄りました。
するともう、タイヘン／
「なんだなんだ？」
なんてぐあいに、ドド〜っと人が寄ってきたのです。

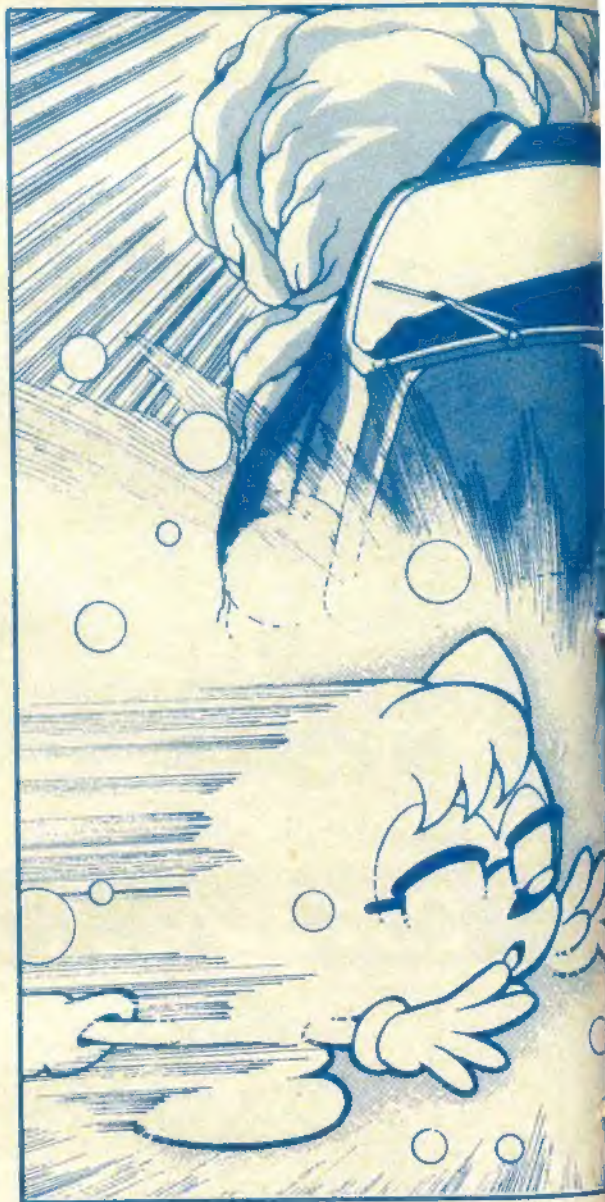
エッグマンは、おおあわてで。
「うわ〜。こらこら、このメカに寄ってはいかん。これは、国家ヒミツじゃ」
その間にも、「う〜〜〜ららら〜〜〜／」
オムレッツが、いきばっています。
そしてついに、
「オメデタ〜〜〜ッ／」
シュポンシュポンシュポンシュポン／
なんとなんと、あの、す〜ぐバクハツしちゃうメカ、〈ボッカン〉を。
しかも、なんとなんと、一度に三匹（？）も生んじゃったのでした。
「うわ〜、なによこれぇ〜？」
と、パティ。
「もしかして。これって、メカの三つ子？」
「くう〜、よりによって。今日はまた、チョ〜シがええんじゃの〜？ オムレッツ。」
「だなや。」
すると、

「ちょっと待て！　三つ子だと？」
そう言って、ヤジ馬たちの中から飛び出す者がいます。
「へん！　オレたちは、四つ子だ。三つ子なんかに、負けねぇ〜ぞ。」
と、よせばいいのに、エバッテみせます。
そうです。やっぱり、ヘッジホッグ小学校に行くとちゅうだった、ベルーカ・ブラザースが現れたのです。
「ああ、こらこら少年たち。下がってなさい。危ないぞい。」
エッグマンが、あわててマッドたちを押し出そうとします。
でも、そんなことで引き下がるマッド、トッド、ハッド、ミグ〜ではありません。
エッグマンの足の下をすりぬけると、
「そ〜れ、〈四つ子キ〜ック〉！」
などと言って、三つ子の〈ボッカン〉にキックをおみまいしたのでした。
さぁ、もうこの後はどうなったか、分かりますね？
ボッカァ〜ンボッカァ〜ン！　ボッカァ〜ン！
〈ボッカン〉というメカは、何かにぶつかると同時に、すぐにバクハツしてしまうメカです。
ベルーカ兄弟のキックを浴びるとすぐに、つぎつぎにバクハツしたのでした。

「ゲホゲホッ！」
あわれマッドたちは、黒コゲです。
「スッゴイ！　スゴイスゴイね、お兄ちゃん！」
大騒ぎが大好きのタニアは、もう大喜び。
「おまわりさぁ〜ん、すっごいヒミツ兵器じゃな〜い！」
とかいって、投げキッスを送るありさまです。
「おいおい、やめろってば、タニアァ〜。」
ニッキは、もう恥ずかしくってしかたありません。」
そんなニッキを見て、エミーも「うふふっ」とカワイク笑いました。

エミーがあぶない！

ところで、ドクター・エッグマン。
タニアが、投げキッスまでしてノセちゃったもんですから、大喜び。
「どうわ〜はははは〜〜〜！　それほどでもないがのぉそれほどでも〜〜〜！　どうわ〜ははは〜〜〜！」
大笑いして、ぶっぷぷぷぷ〜〜〜！　それといっしょに、すさまじいオナラを連発しはじめました。
「うわ〜〜〜、たまんねぇ〜〜〜！」
黒コゲのベルーカたちが、悲鳴をあげて逃げ出します。

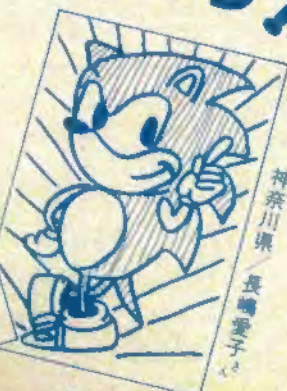
そして、あたりは、たちまち黄色い煙におおわれていきました。
なんたって、エッグマン。
タマゴの黄身が、大好物なのです。そのオナラっていったら、黄色い煙になるに決まってます。（ホントかねぇ？）
さぁ、ここで一番困っちゃったのは、オムレッツでした。
カレが生んじゃったメカ〈ボッカン〉を止めるには、なんたって腰に下げたドライバー・ガンで〈ボッカン〉を撃たなくちゃなりません。
でも、あたりは、黄色い煙が立ち込めています。それで、三匹の〈ボッカン〉がどこにいったのか、まったく分からないのです。
ウンチャ・・ウンチャ・・ウンチャ・・。
その間にも、〈ボッカン〉は、あっちこっちに歩きだし、誰かに当たっては、ボッカア〜ン！
バクハツしてます。
「うわ〜！　逃げろ〜〜〜！」

The Adventures of SONIC the Hedgehog

それまで喜んで見ていたニッキやエミーたちも、おおあわて。
「キャ〜、助けて〜！」
逃げ出しました。
「エミー！　こっちこっち！」
ニッキは、黄色いオナラの煙を抜け出し、ひっしに交差点から歩道のほうに駆け出しました。
後ろからは、〈ボッカン〉に追われたエミーが来ます。
「あ〜ん、待ってよ〜！」
「エミー、早く早く〜〜〜！」
でも、その時です！
キキィ〜〜〜！　猛スピードで走ってきたスポーツ・カーが、エミーに向かって突っ込んできたのでした。
「うわ〜〜〜！　エミー！　危なあ〜い！」
ニッキは、思わずそう叫んで、エミーのほうに飛び出しました。
グオオオ〜〜〜！
スポーツ・カーが、ものすごいスピードでふたりに迫ってきます。
「キャアアア〜〜〜！」
そしてその瞬間、なぜか、ニッキの全身が、ものすごい光に包まれていったのでした。

つづく

ニッキはエミーを助けられるのか!?　次回も見逃せない！

イラストありがとう！

埼玉県／池田紘大

神奈川県／長嶋愛子

みんなも『ソニックの大冒険』のイラスト・感想文を送ってね。（あて先）〒101-01　東京都千代田区一ツ橋２−３−１　小学館「小四ソニック⑪係」

「ソニック2」に会える！

「ソニック２」をはじめ、話題のメガドライブ最新作を体験できる「遊星セガワールド」に、ちゅう選で5000組10000名をごしょうたいします。

■とき／12月6日(日)午前9時30分開場
■ところ／東京両国国技館

●応ぼのきまり●官製ハガキにあなたの住所・名前・年齢・電話番号を書いて、左のあて先まで応ぼしてください。
●あて先／〒104東京都中央区京橋局私書箱11号「遊星セガワールド事務局」係
●しめきり／11月中旬（当選者の発表は、入場券の発送をもってかえさせていただきます）